



RO-M-EW

取扱説明書

目次

はじめに・安全について	3
警告ラベル	8
本作業機について	11
技術諸元表	11
散布パターン	11
作業機コントロールボックス	12
作業準備および調整	13
脱着作業	13
ロアリングピンの高さ	14
作業機の取り付け	14
PTO ジョイント	15
作業機の接続	16
地面からの高さ	16
散布設定の方法	17
通常散布の設定方法：散布表/肥料チェックの使用方法	17
微量散布を行う場合の設定	18
ベーンの組合せ	19
散布量の設定	19
散布パターンの調整	20
キャリブレーションテスト	20
使用前の最終チェック	23
圃場での作業	24
作業全体の流れ	24
境界線散布装置	25
トリムフロー(オプション)	25
ボーダープレート(オプション)	26
感知センサー	28

メンテナンス	29
メンテナンスのタイミング	29
日常の清掃	29
注油箇所	30
PTO シャフト	30
駆動部	30
アクチュエータ	30
トリムフローヒンジ	31
カッピングシャフト	31
ディスク駆動シャフトのコネクタ	31
センターギアボックス	31
ディスクギアボックス	31
点検箇所	32
アジテーター部分の点検	32
メタリングプレートの点検	33
肥料排出タイミングの点検	34
ディスクチャージカップの点検	34
アジテーター部の点検/補修	35

はじめに

この度はビコン製品をお買い上げ頂きありがとうございます。

本取扱説明書は、製品の正しい取り扱い方法、注意事項について説明しています。ご使用前に必ず本取扱説明書を熟読頂いて十分理解された上で製品を正しくお取り扱い頂き、安全な作業を行うためにご活用ください。

本取扱説明書をお読みになった後は、必ず大切に保管し、ご使用中にわからないことがあった際に取り出してお読みください。なお、製品の使用変更によりお買い上げの製品と本取扱説明書の内容が一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

安全第一

本取扱説明書に記載した注意事項や作業機に貼られた警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。ご使用前によく読んで必ず守ってください。

注意事項について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱う上での注意事項について次のように表示しています。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う恐れがあるものを示しています。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。



注意事項を守らないと、怪我を負う恐れのあるものを示しています。



注意事項を守らないと、作業機の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。

安全に作業するために

本製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行ってください。安全に作業をするために守って頂きたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「警告サイン」として説明の都度記載しております。

一般注意事項



取扱説明書を読む

共同作業や他人に作業機を貸す場合は、使用者全員が取扱説明書を熟読してから使用するように指導してください。死亡や重大な傷害事故、作業機の破損の原因となります。



作業に適した服装をする

袖口、襟口がぎっしりした作業着を着用してください。回転部に巻き込まれたり、作業機に引っかかったりする恐れがあります。死亡や重大な傷害事故の原因となります。



点検・整備をする

作業機の使用前後には必ず点検・整備をしてください。ボルト、ナットの緩み、作業機の損傷などをチェックし、まし締め及び修理を行ってください。傷害事故の原因や作業機の破損の原因となります。



改造をしない

作業機の改造をしないでください。純正のアタッチメントパーツ以外は取り付けないでください。傷害事故の原因や作業機の破損の原因となります。



作業機を他の目的で使用しない

作業機はそれぞれの作業用途に合わせて製造されています。作業用途目的以外の作業には使用しないでください。作業機の破損の原因となります。

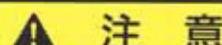
作業時の注意事項



警 告

ボルト・ナットの点検

ボルト・ナットの緩みがないか点検し、所定のトルクで締めてください。作業中に部品が外れて、死亡や重大な傷害事故や周囲の器物破損の原因となります。



注 意

停止、安定した状態での点検・整備

作業機が安定停止した状態で置かれていることを確認した後、点検・整備を行ってください。

不安定な状態や停止していない時は作業機が動いたりして、傷害事故の原因となります。

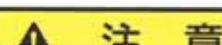


警 告

安全カバーの点検

安全カバー、PTO シャフトカバーなど全てのカバー類の取り付けを点検してください。

カバーの外れ、破損、不完全な取り付けは死亡や重大な傷害事故の原因となります。



注 意

油圧回路の点検

油圧ホース、カプラー、シリンダーが汚れていたり、破損していないか点検を行ってください。油圧ホースやシリンダーが破損していると傷害事故の原因となります。

トラクターへの着脱時の注意事項



危 険

人（子供）を近づけない

作業機の着脱は一人で行い、さらに入（特に子供）に注意し周囲に近づけないようにしてください。接触や挟まれたりして、重大な傷害事故の原因となります。



警 告

作業機を装着するときはトラクターのエンジンを止める

トラクターの PTO を切りエンジンを停止した状態にして、作業機をトラクターの 3 点リンクヒッチまたは牽引ヒッチに装着してください。死亡や重大な傷害事故の原因となります。



警 告

PTO シャフトの着脱と作業機の調整・点検時はエンジンを停止させる

トラクターの PTO を切り、エンジンを停止させキーを外してから行ってください。

トラクターや PTO が急に動き出して回転部に巻き込まれたり、トラクターや作業機との接触などにより死亡や重大な傷害事故の原因となります。



警 告

トラクターと作業機の間に立たない

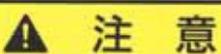
トラクターを移動させて着脱する際は、絶対にトラクターと作業機との間に立たないでください。接触や挟まれて、死亡や重大な傷害事故の原因となります。



警 告

作業機の下に入らない

作業機を上げた際、作業機の下に入ったり足を踏み込んだりしないでください。トラクターのエンジンが停止していても作業機の重量やその他の原因で機械の下敷きになる可能性があり、傷害事故の原因となります。



注 意

平坦な場所で着脱を行う

作業機が安定した状態を保てる、平坦な場所で行ってください。不安定な状態では、作業機が転倒して事故の原因になる他、トラクターが動き重大な傷害事故の原因となります。



警 告

回転半径に入らない

トラクターの回転半径は、作業機を取り付けた場合、トラクターを含めた全体の回転半径は大きくなります。接触して傷害事故の原因となります。

作業時の注意事項



危 険

PTO を回す時は周囲に人を近づけない

トラクターの PTO を入れ、作業機の回転をスタートさせる時は、人を作業機に近づけないでください。特に子供には注意し、作業機の後ろに人がいないことを確認してください。石やれきなどが飛散し、死亡や重大な傷害事故の原因となります。



危 険

人を近づけない

作業開始時、作業中は石やれきなどが飛散する範囲内に人を近づけないでください。死亡や重大な傷害事故の原因となります。



危 険

作業機の調整はエンジンを停止してから行う

作業機の調整を行う場合、トラクターの PTO を切り、エンジンを停止してから行ってください。トラクターや作業機が急に動き出して回転部に巻き込まれたり、接触などにより死亡や重大な傷害事故の原因となります。



危 険

回転部が停止するまで作業機に近づかない

回転部の停止操作(PTO を切るなど)を行った後、すぐには止まらずしばらく回転しています。接触で傷害事故の原因となります。

危 険

PTO シャフトに近づかない

作業機が回転中は、PTO シャフトに近づかないでください。衣服や手、毛髪などが巻きこまれて死亡や重大な傷害事故の原因となります。

警 告

傾斜地での急旋回はしない

トラクターが転等し、重大な傷害事故の原因となります。

警 告

平坦な場所に格納する

人が近づかないような場所でかつ、平坦な場所で安定した状態で格納してください。
不安定な場合、転等して死亡や傷害事故、作業機の破損の原因となります。

注 意

作業機の上に乗らない

特に、子供が上に乗って遊ばないように注意してください。転倒して傷害事故の原因となります。

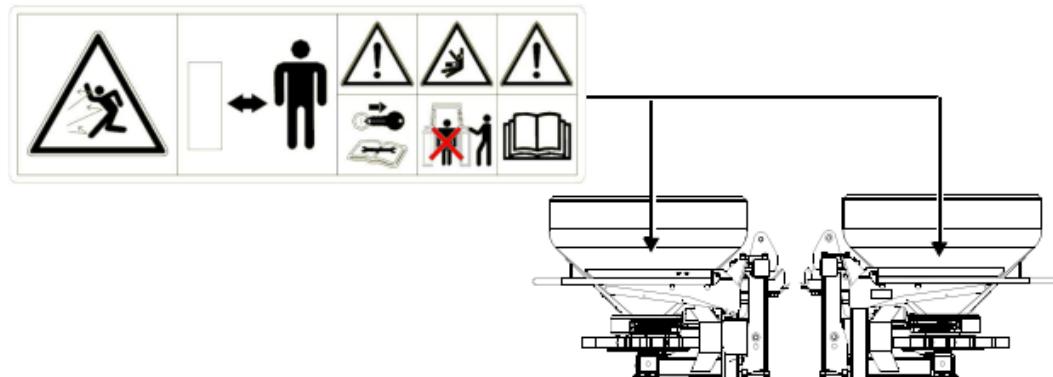
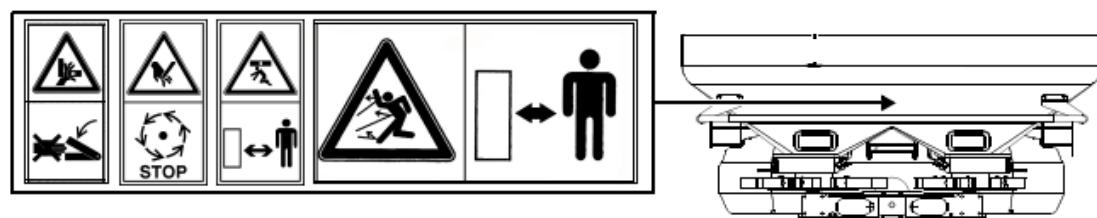
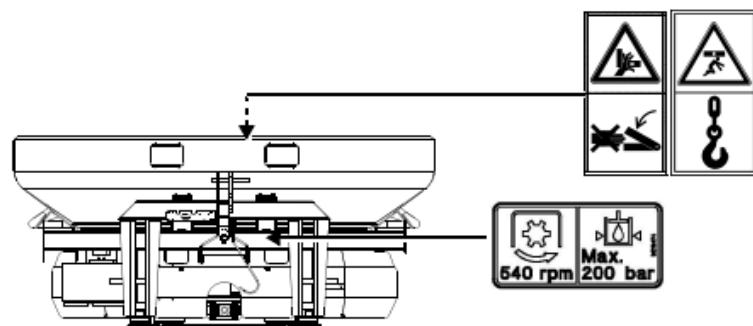
警告ラベル

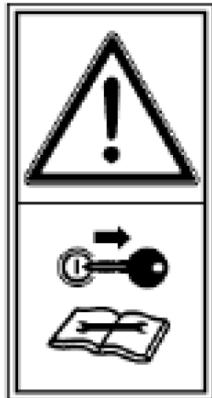
注意！

安全に関するステッカーが各部に貼付してあります。

イラスト+日本語補助ステッカーの内容を確認し、安全作業を心がけてください。

破損・紛失した場合は新しいものを貼り直してください。





1



2



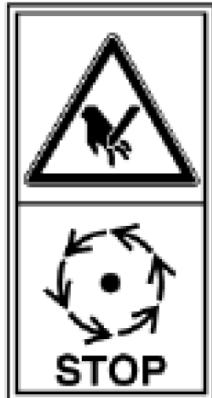
3



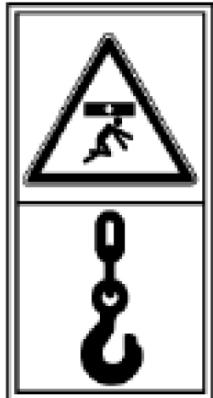
4



5



6



7

安全表記

1.機械の調整・点検をする時はトラクターのエンジンを切って、キーを抜き取ってください。エンジンが回ったまでの作業はトラクターや機械が急に動き出して大変危険です

2.作業機をトラクターに接続するときは機械とトラクターの間の危険地帯に入らないでください。トラクターと機械に挟まれて危険です。

3.トラクターのエンジンを切っていても油圧は残っています。残圧などによって上から部品が落ちてこないように注意してください。

4.機械を正常に使用していても小石や異物が飛んでくることがあります。作業範囲には誰も近づかないようにしてください。

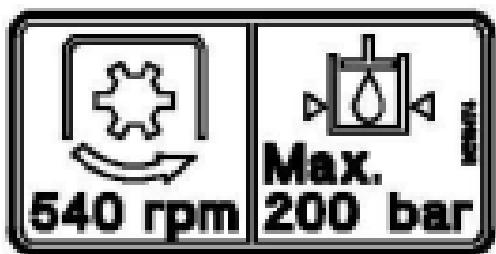
5.機械可動部分には絶対に手を近づけないでください。挟まれたり巻き込まれたりして危険です。

6.機械は動力を停止してもすぐには止まりません。回転部分などは完全に停止するまでは絶対に近づかないでください。

7.機械を吊り上げる際は必ず吊り上げポイントを使用して作業機を吊り上げてください。



取扱説明書を読んでください。取扱説明書には安全に使用する方法が記載されています。取り扱い方法をよく確認の上、安全に注意して作業を行ってください。



油圧は 200bar を超えないようにしてください。200bar を超えると作業機が破損する恐れがあり、非常に危険です。

PTO シャフトの rpm が規定値を超えないようにしてください。

本作業機について

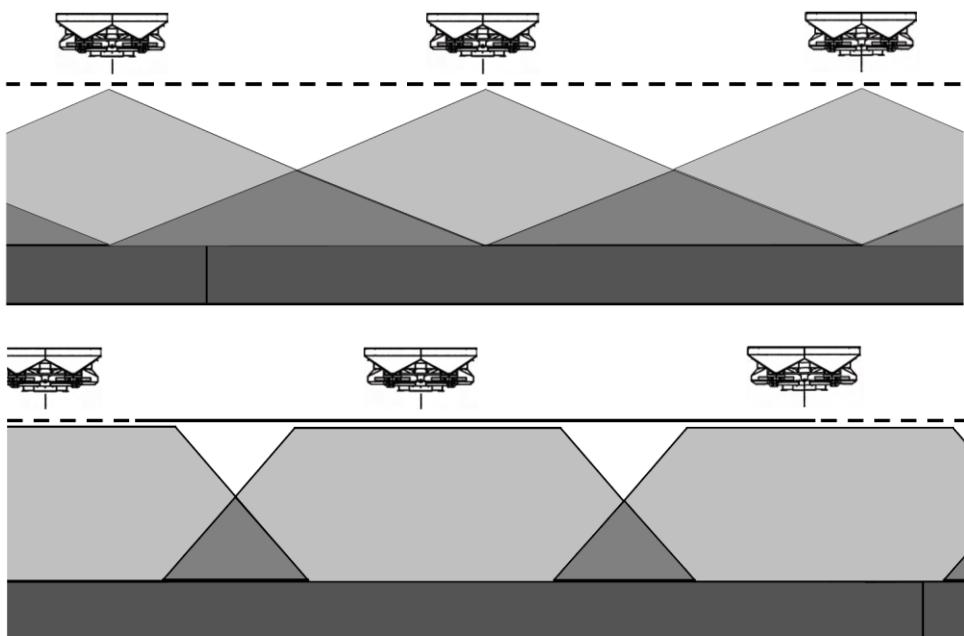
技術諸元表

	RO-M EW	RO-M EW	RO-M EW
ホッパー容量(L)	1100	1550	2000
作業機全高(cm)	100	119	138
ホッパー幅(cm)		220	
機械重量(kg)	403	427	451
最大積載重量(kg)		2595	
全機種共通仕様			
散布量	10-320		
リシケージ		カテゴリ2	
PTO回転数		540	
作業幅(m)	10,12,15/16,18,20/21,24,(27/28)		

散布パターン

本ワイドスプレッダーは設定によって散布幅を簡単に変更することができます。その際散布パターンが変わることがあります。平均的な散布幅の場合、散布パターンは二等辺三角形の形になり重ねあわせた時、正確な散布が可能になります

作業幅が極端に広すぎると散布パターンは二等边三角形ではなく、台形パターンになり重ねあわせのポイントが少なくなります。

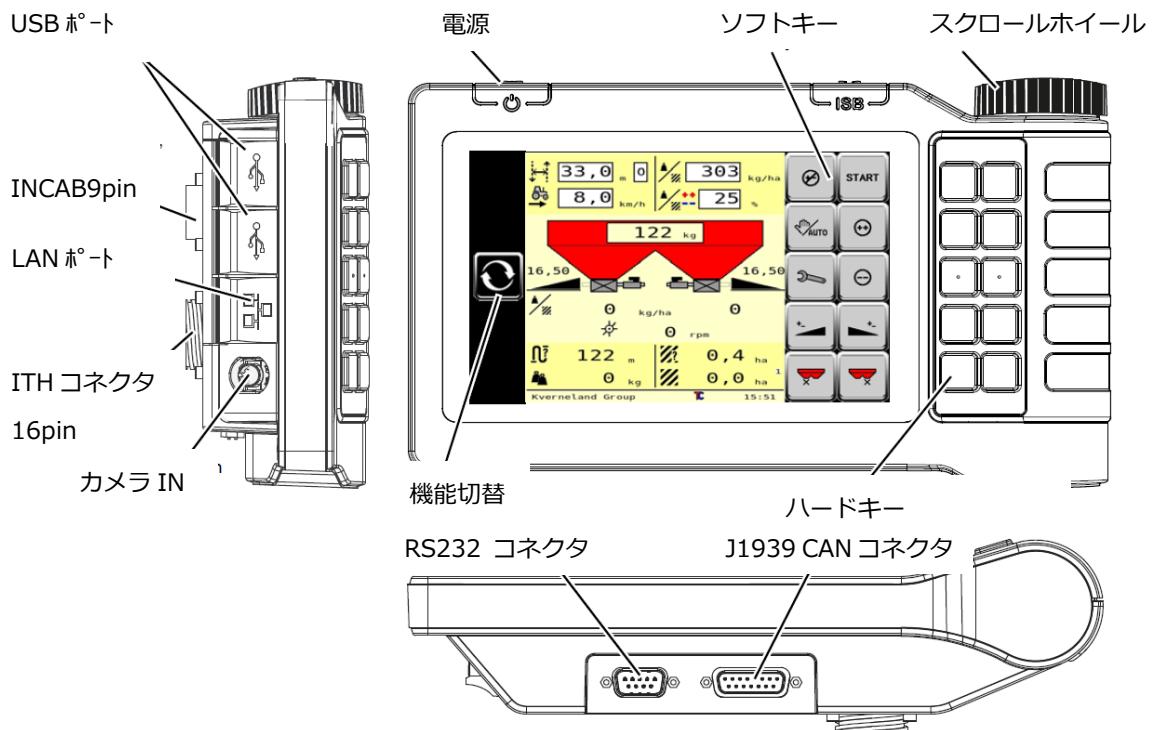


作業機コントロールボックス

Iso Match Tellus GO+

Iso Match Tellus GO+(IMTGO+)は ISOBUS 汎用モニターになっており本作業機以外にも他の ISOBUS 対応作業機を操作することができます

Iso Match Tellus GO+での作業方法、機能については別紙取扱説明書に記載されています



作業準備および調整

危険！

作業機とトラクターを接続する際は、周囲に人、特に子供がないことを確認し、安全を確保してから作業を開始してください。またトラクターと作業機の間には立たないでください。急な動作によって接触や挟まれて怪我や深刻な事故を引き起こす恐れがあります。

トラクターには以下の接続が必要になります。

電装関係	作業機電源&通信ケーブル	ISOBUS接続
	ライトKit*	ライトKitコネクタ:12/24V
油圧関係	単動1~2系統*	トリムフロー右
		ボーダープレート

*各種オプションになります

脱着作業

脱着作業を行う際は以下の項目を確認してください

- ・作業を行う際はトラクターを停止しパーキングブレーキをかけてください
 - ・トラクターの輪留めをかけてください
 - ・脱着作業を行う際は、必ず平坦で安定した地面で行ってください。その際、周囲の安全も確保してください
 - ・周囲に作業者以外が近づかないようにしてください
 - ・作業は取扱説明書に則って進めてください
 - ・3点リンクを動作させる場合は絶対に周囲の安全と作業機を確認してから行ってください。
 - ・3点リンクを動作させて脱着を行う場合は、絶対に作業機とトラクターの間には立たないでください。
 - ・PTO 駆動がある状態での脱着は絶対に行わないでください。深刻な怪我や事故を引き起こします。
-
- ・脱着作業を行う前に必ず取扱説明書を熟読し、理解した人間が行うようにしてください。

農作業での事故は脱着作業時の事故が最も多い割合を占めています。必ず作業方法を理解して、安全を確保して作業を開始してください。

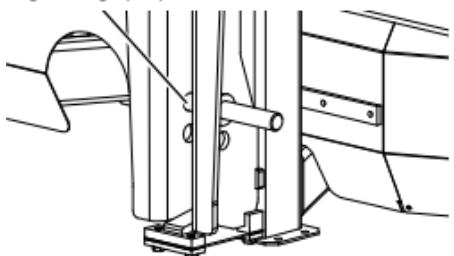
注意！PTO ジョイントカバーのチェーンは必ず回転に干渉しない安全な場所にロックしてください

回転に干渉すると PTO ジョイントだけでなくトラクターや作業機を破損する恐れがあります。

ロアリンクピンの高さ

作業前に取り付けロアリンクピンの高さを確認してください

High linkage pin position



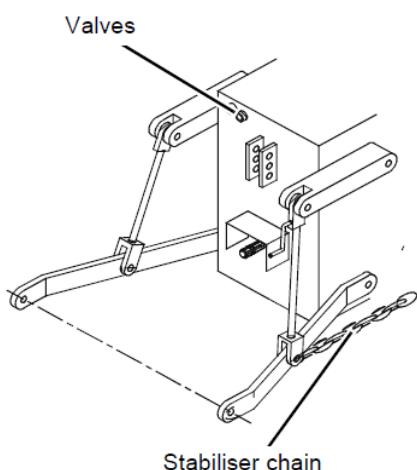
作業機のロアリンクピンの取り付け位置は 2箇所あります。作物の頭からの高さによって使用する穴を変更してください。

基本的には作物の頭から 75cm 取れる場合は上穴を使用してください。

作物が育ち、頭から 75cm 取れない場合は下穴を使用して高さを確保してください。

その際作業機が水平になるようにトップリンクを調整してください

作業機の取り付け



作業機を取り付ける際は、作業機の中心がトラクターの中心に来るよう取り付けを行ってください。

ロアリンクを固定するためにチェックチェーンやスタビライザーロッドを使用してロアリンクの遊びが 5cm 未満になるように固定してください。

- ・ロアリンクの幅を作業機の取り付け幅に合わせます。
- ・トラクターに油圧が掛かっていないことを確認してください
- ・トラクターの 3 点リンクに装着します。リンクージのカテゴリーは適切なものを使用してください。

注意！

本作業機装着時、PTO ジョイントは必ず最後に接続してください。

また、PTO ジョイントの取り外しを行う際は、必ず最初に取り外してください。

* 必要に応じてトラクターにフロントウェイトを取り付けてください。ホッパー内に最大限肥料を入れた場合、フロントタイヤの接地圧が低下するため、必ず確認を行ってください

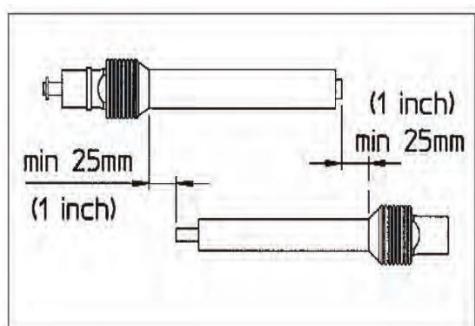
PTO ジョイント



注意！

PTO ジョイントはトラクターに合わせて長さを調節してください。トラクターによっては長すぎて作業機だけでなくトラクター本体を破損してしまう恐れがありますので、マッチング前に長さを確認して下さい。長さを確認せずに接続し作業機を上げると、PIC 軸同士の距離が変わるのでドン突く可能性がありますので必ず注意してください！

逆に PTO ジョイントが短すぎると、作業中に抜ける可能性があり非常に危険です

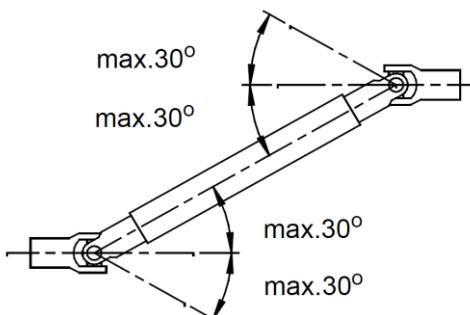


PTO ジョイントのチューブの掛け合せは、最低でも 150mm 確保してください。

チューブの先端のフリーのクリアランスは最低でも 25mm 確保してください。



トラクターと作業機の PIC 軸の距離は水平の位置が最も近くなります。ジョイントの調整を行う場合は、この時ドン突かないような長さで調整してください。



注意！

ジョイントに角度が付き過ぎないように気をつけてください！

本作業機の PTO ジョイントは広角クラッチ式のジョイントではありません。

そのため最大角は図のよう 30° になっています。これ以上の角度を付けると PTO ジョイントの破損だけでなく、作業機やトラクターを破損する恐れがありますので絶対に角度を付け過ぎないようにしてください。

クラッチの調整

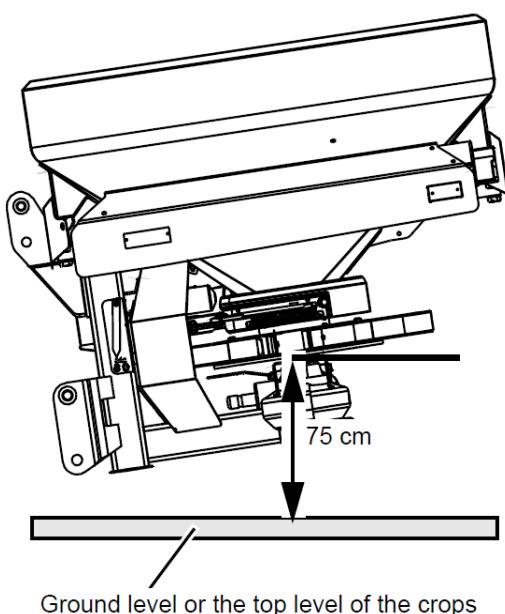
本作業機の PTO ジョイントには安全のためトルクリミッター式のクラッチが搭載されています。

出荷段階で適切なトルクで調整されています。もしも調整を行う場合は、作業機を購入した販売店へご相談ください。

作業機の接続

作業機を使用する前には正しく接続を行う必要があります

地面からの高さ



作業機のポジションは以下の 2 点を設定してください

- ・対象物からの高さ
- ・作業機が水平である（トップリンクとリフトロッドを使用して調整を行ってください）

注意！

作業機の高さは散布対象の頭から作業機ディスクの上面までの高さになります。

この間隔を **75cm** に設定してください*

* 追肥などの場合、ロアリンクの下穴を使用しても作物の頭から 75cm 取れない場合があります。その際は決められた角度を設定し トップドレッシングの設定を使用してください

トップドレッシングの設定の場合、水平に作業機を使用するのではなく、角度をつけて散布を行います。

トップドレッシング等作業機に角度をつける場合、散布表を参考に設定してください。

散布幅が 27m を超える散布幅、麦の追肥作業などには
散布表を参考にして、オプションの角度ゲージ①を参考
に、本機を 8 度前傾させ、散布を行う場合があります。

①

散布設定の方法

通常散布の設定方法：散布表/肥料チェックカーチの使用方法

散布表の見方

例) 肥料タイプ YaraLiva TROPICOTE

比重 : 1.14kg/ltr

肥料チェックカーチ割合: 0-80-20-00

作業幅: 18m 散布量 340kg/ha

作業速度 8km/h

作業機設定値の決定

1) 散布表での近似する肥料ページを検索

2) 作業速度の列から希望散布量に近い値を選択

3) 同じ行から設定値を算出

例の条件では · · ·

散布ポジション「I」

シャッターポジション設定「42+0」

毎分散布量「82kg/min」

肥料チェックカーチの使用方法

散布表に該当する肥料の記載がない場合、肥料チェックカーチで類似の肥料を探します。

1. チェックカーチの蓋を開け、4.75mm のマスに肥料を入れます

2. 蓋を閉じてチェックカーチを横にして振ります

3. 各マスに残った肥料の割合が最も近い肥料のデータを散布表から流用します

散布幅: 18 m

作業速度: 8 km/h

散布量: 82 kg/min

肥料チェックカーチ割合: 0 - 80 - 20 - 0

	kg/min	AB CD	kg/min	km/h	kg/ha					
18+0	6,5	E	14	64	56	50	45	41	38	35
18+3	9,8	F	20	94	82	73	66	60	55	51
24+0	13	G	26	124	108	96	87	79	72	67
24+3	17	H	33	159	139	124	111	101	93	86
30+0	20	H	41	195	170	151	136	124	114	105
30+3	23	H	48	230	201	179	161	146	134	124
36+0	27	I	56	266	232	207	186	169	155	
36+3	33	I	69	328	287	255	229	200	181	
42+0	39	I	82	341	303	273	248	227	216	
42+3	46	I	95	452	396	352	317	288	264	243
48+0	53	I	109	520	455	404	364	331	303	280
48+3	61	J	123	588	514	457	411	374	343	316
54+0	68	J	138	655	573	510	459	417	382	353
54+3	76	J	153	730	638	567	511	464	426	393
60+0	84	J	169	804	704	625	563	512	469	433
60+3	92	J	184	878	769	683	615	559	512	473
66+0	100	J	202	960	840	747	672	611	560	517
66+3	108	I	219	1042	912	810	729	663	608	561
72+0	116	I	236	1124	983	874	787	715	655	605
72+3	123	I	254	1211	1060	942	848	771	707	652
78+0	130	I	273	1299	1136	1010	909	827	758	699
78+3	137	I	291	1386	1213	1078	970	882	809	747
84+0	146	I	306	1456	1274	1132	1019	926	849	784
84+3	154	I	320	1525	1334	1186	1067	970	889	821
90+0	162	I	335	1594	1395	1240	1116	1014	930	858

Spreading Settings 1

pos	45
kg/min	60
	0 %
AB CD	P / 0
	<input type="checkbox"/> L <input type="checkbox"/> R
0.0 m	

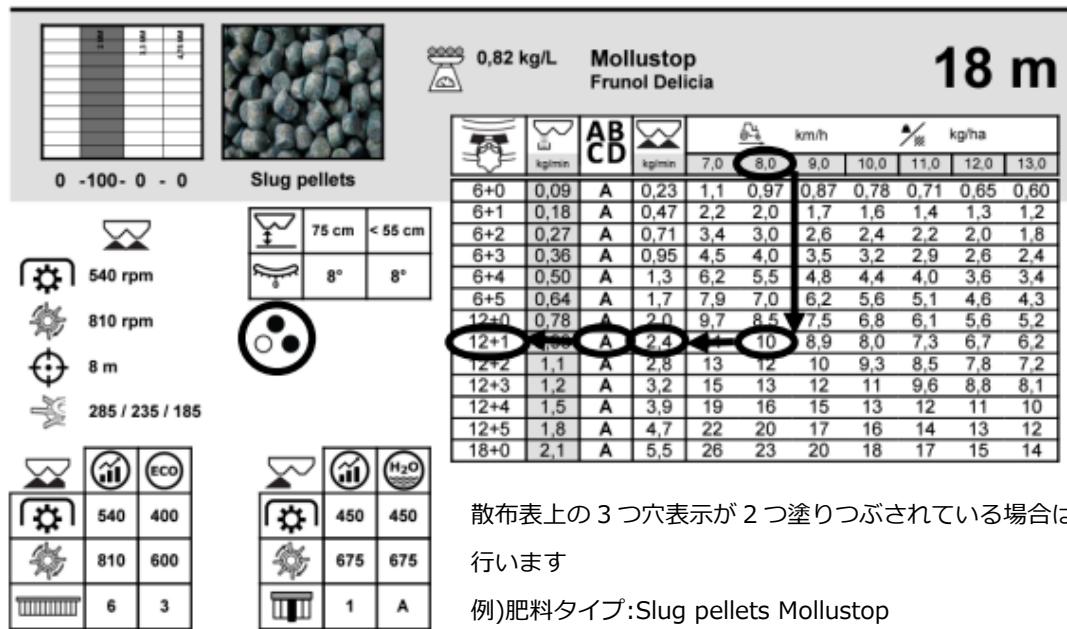
シャッターポジション

毎分散布量

17

表に従って、シャッターポジションと 1 分間の散布量を入力してください。作業開始のキャリブレーションに影響しますので必ず入力してください。

微量散布を行う場合の設定



散布表上の3つ穴表示が2つ塗りつぶされている場合は微量散布の設定を行います

例)肥料タイプ:Slug pellets Mollustop

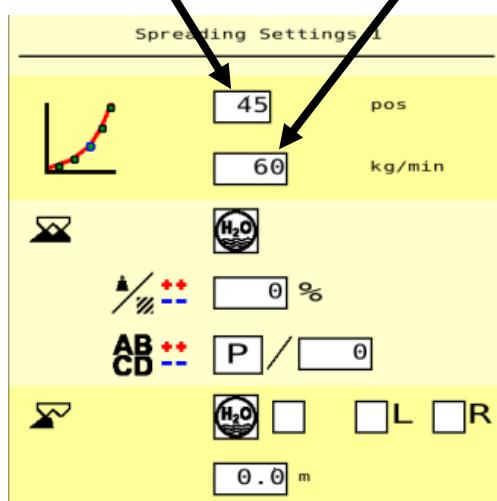
比重:0.82kg/ltr

肥料チエッカーチ割合:00-100-00-00

散布量:9.8kg/ha=2.4kg/min(*)

散布幅:18m 作業速度 8km/h

シャッターポジション 每分散布量



1)散布パターンは通常通り[A]

2)トラクターを停止して、少量散布のシャッターレバーを操作して2つのシャッターを閉じます。

3)コントロールボックスメイン画面で作業幅 18m を入力

4)メイン画面で散布量に 10 を入力し、増減量のステップ幅を入力します。
想定車速がある場合は、車速を入力します。

5)メイン画面から設定画面に移動します

6)設定画面で表のシャッターポジションと毎分散布量を入力します

シャッターポジション:12+1

毎分散布量:2.4

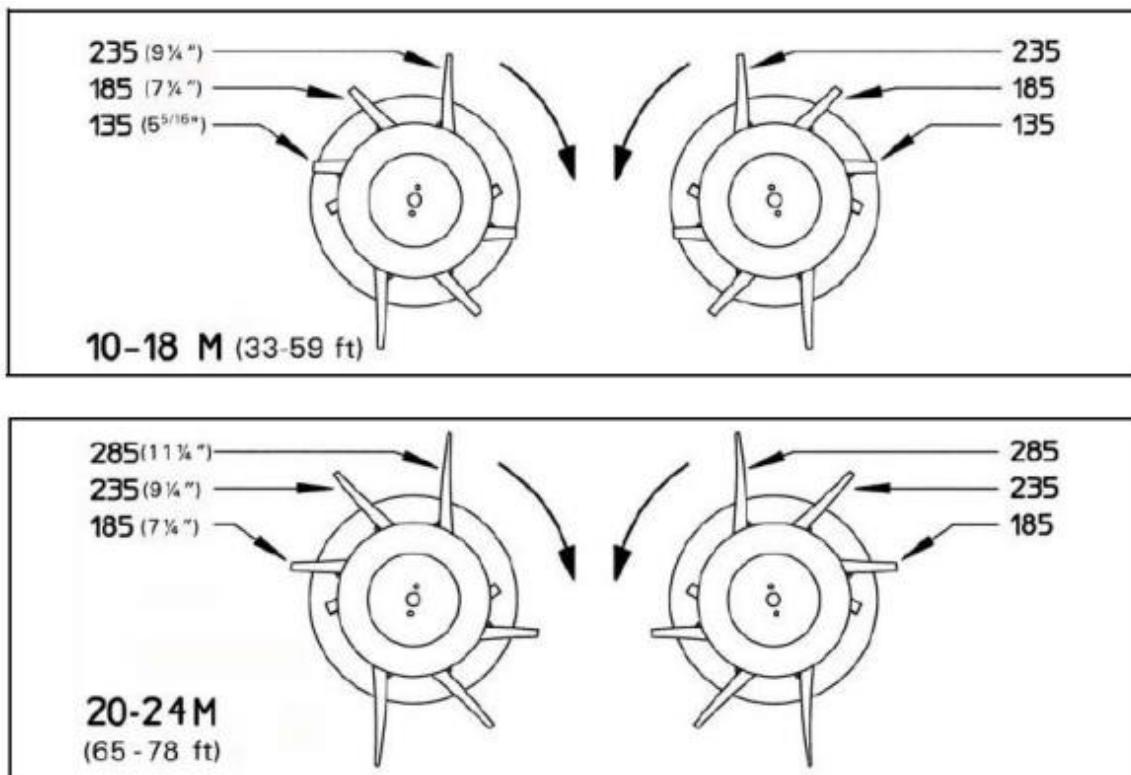
注意！作業前には必ず「キャリブレーション」テストを実施してください

注意！肥料は同じ種類の肥料であっても、生産ロットにより粒径などが異なる場合があります。

最終項目にあるように、定期的に「公式テストキット」による散布テストを実施することをお勧め致します。詳細はお買い上げの弊社特約店にお問い合わせください

ベーンの組合せ

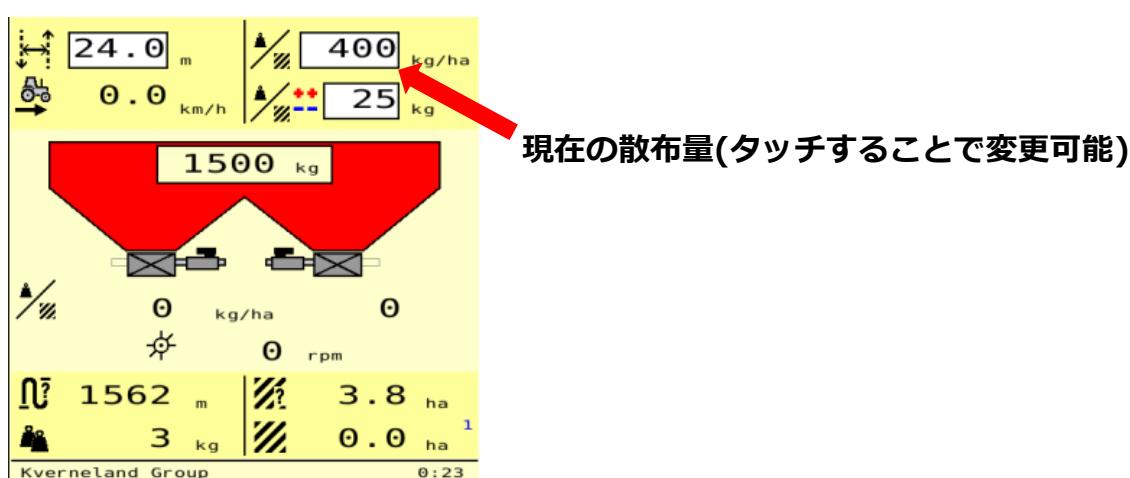
作業幅によって作業機の使用するベーンの長さが異なります。散布表に応じてベーンを設定してください。

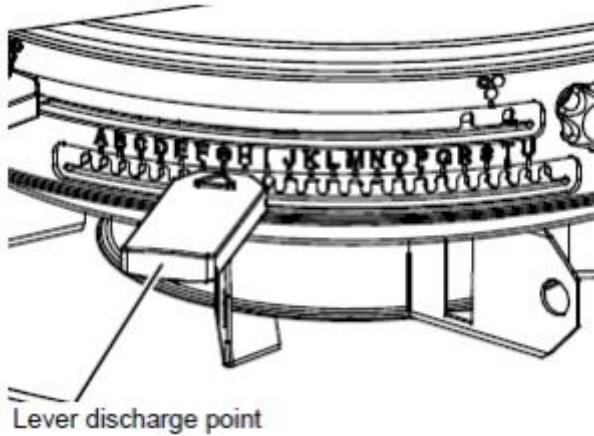


散布量の設定

散布量の調整はコントロールボックスで行います。

散布量設定の項目をタッチすることで、数値入力画面になりますので、希望の散布量を入力しチェックマークで決定してください。





散布パターンの調整

肥料排出タイミングの調整を行ってください。

グリップを引き、A～U のアルファベットを合わせます。
グリップを戻し、確実にロックされたことを確認してください。

キャリブレーションテスト

Operation Settings		
	GPS J1939	- <input type="text"/> 20 %
	θ	<input type="button" value="Cal"/>
	1488 kg	<input type="button" value="=θ"/>
	<input checked="" type="checkbox"/> kg	<input type="checkbox"/> %
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

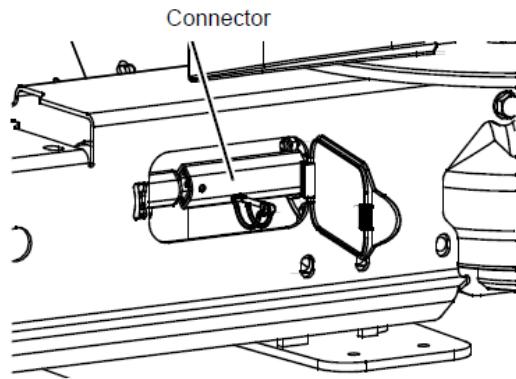
作業を開始する前にキャリブレーションテストを行う必要があります。キャリブレーションテストは左右どちらのディスクでも行うことは可能ですが、トリムフローが装着されていない側で行うとスムーズに行うことができます。本誌では左側でキャリブレーションを行う手順を説明します

注意！

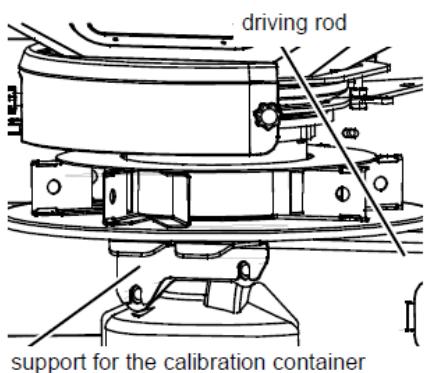
肥料を投入する場合は必ずトラクターに作業機をつけ、浮かせた状態で投入してください！



左側を選択

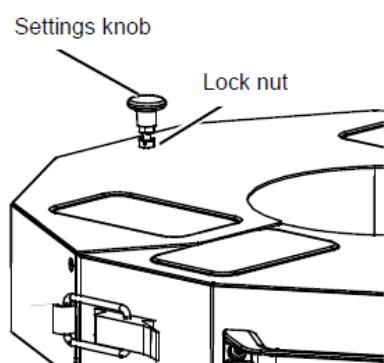
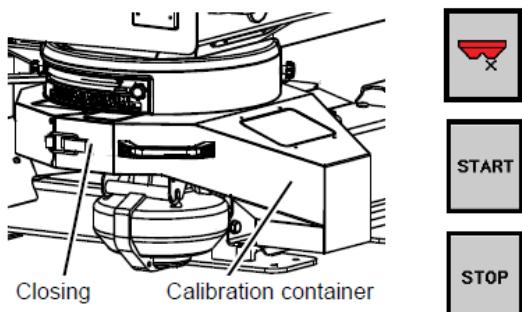


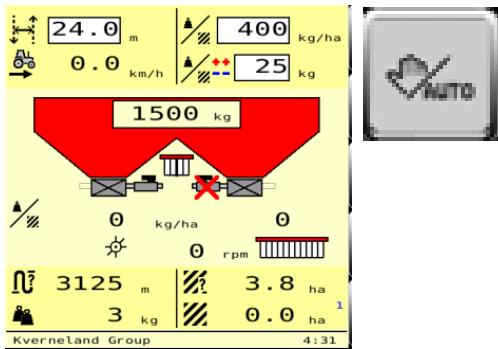
キャリブレーションテストは左側のディスクで行います



- 1) 右側ディスクのドライブシャフトのコネクターを外し、シャフトを縮めたポジションで固定します
- 2) 左側のディスクからベーンを取り外します
- 3) キャリブレーション用コンテナを引っ掛け、ディスクにセッショニングしないことを確認しロックします。
- 4) 安全に注意してトラクターのエンジンをかけ、コントロールパックスを起動させ、メイン画面でシャッターが開かないように右側の散布を停止させます
- 5) 周囲の安全に気をつけて PTO 駆動を入れ、スタートキーを押して左側のみ散布を開始します。5 秒間行ってください
- 6) 5 秒後にストップキーを押して散布を停止します。
- 7) PTO 駆動を切り、トラクターを停止させます。このときキャリブレーションの数値を正確にするために肥料はそのままにしてください。

ここまでがキャリブレーションの準備になります

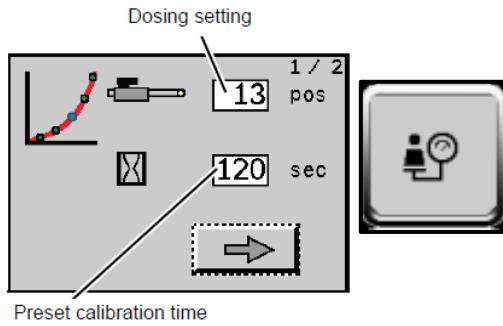




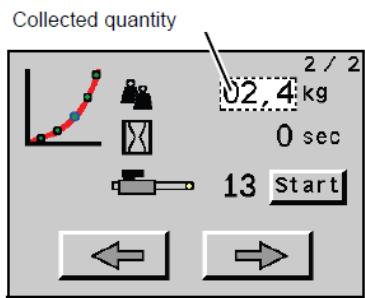
8)再びトラクターのエンジンをかけ、コントローラーの電源を入れます。メイン画面の(manual/auto)キーを押して手動キャリブレーションをOFFにします

*手のマークが点滅していないければ手動キャリブレーション OFF の状態です

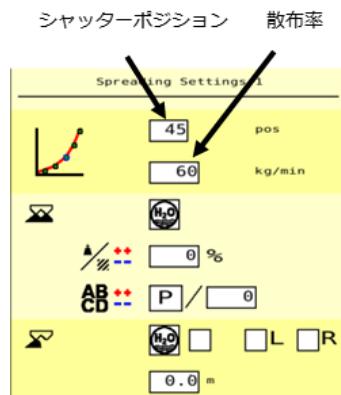
9)設定画面へ進み、手動キャリブレーションへ進みます。



10)初めのキャリブレーションが行われる前での間、正しく散布を開始するためにインプットボックスに散布表の設定値を入力します。使用する肥料に適合した散布表より、メータリングプレートの設定値を探します。インプットボックス(pos)にデータを入力します。またキャリブレーション時間が長いほど、より正確なキャリブレーションができますので 60~120 秒程度のキャリブレーションをお勧めします。



11)矢印キーを押すと、次の画面に移ります。PTO が接続されていることを確認してスタートキーを押してキャリブレーションをスタートします。その間画面上ではキャリブレーション時間がカウントダウンされます。キャリブーションが終わると自動的に停止します。PTO を停止させ、トラクターのエンジンを停止させてください。



12)この間にキャリブレーションコンテナに移った肥料の重量を測定し、上段のコラム(kg)に入力しOKキーを押して、入力値を確定します。

この値から、毎分散布量が計算され"Curve Calibration"ではこれによって得られたシャッター設定と毎分散布量の値が表示されます。

ここまで工程が完了したら、キャリブレーションコンテナを取り外し、ベーンを元に戻し右側のディスクを接続してロックします

通常本作業機はオートキャリブレーション機能を搭載していますが、作業開始時は補正をかけるデータがないので手動キャリブレーションが必要になります。

ある程度作業を行うと、オートキャリブレーションが働きます。

使用前の最終チェック

- ・作業機は散布に適した調整がされていますか？
- ・作物/地面等の対象物から 75cm
- ・作業機が水平状態、トップドレッシングに対応する角度が付いている
- ・シャッターの開度が正確か？
- ・電気接続/油圧接続は正常にされていますか？
- ・ギアボックスの PTO 接続は正しい位置に接続されていますか？
- ・境界線でトリムフローを使用する場合は正常に動作していますか？
- ・散布/作業に必要な設定は正しく入力されていますか？
- ・設定ペーンの長さは合っていますか？

使用する前に以下の最後のチェックを行ってください。チェックを行うことは、安全かつ正確で均一な散布をすることに繋がります

使用する肥料に適した散布表を使用していますか？

- ・比重/粒径、肥料の選択
- ・散布量、散布幅、車速

注意！

肥料の投入はトラクターに接続して、作業機が浮いた状態で行ってください！

作業画面

- ・作業幅
- ・散布量
- ・追肥/減肥量
- ・車速が取り出せていますか？
- ・肥料が投入されていて、正確な重量が出ていますか？

設定画面

- ・傾きセンサー/重量センサーが正しく動作していますか？
- ・電源/PTO 回転/肥料の重量のアラームが設定されていますか？
- ・トリムフローは設定されていますか。

圃場での作業

作業全体の流れ



トラクターの PTO を低い回転数から入れ、散布表で指定された回転数まで徐々に上げてください。

その後、「START」キーを押して作業を始めます。

作業は始めに枕地を 1 周するように散布を行ってください（圃場の外周を 1 周してください）。

圃場の外周を散布し終えた後、枕地の内側を散布してください。

圃場内の散布を行う際は、走行ラインが設定した散布幅の間隔になるよう行ってください。

スプレーヤーの防除畝に合わせて、作業幅を設定すると効率よく作業を行うことができます。間違った設定を行うと過度な散布や未散布部分ができてしまう恐れがあります



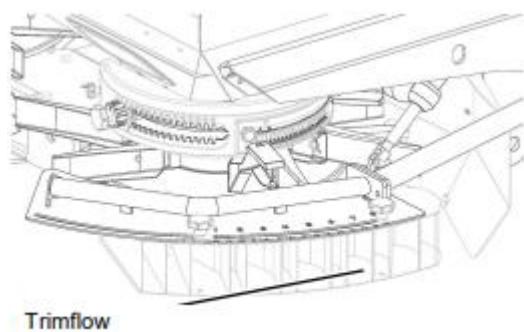
散布作業が終了した場合は、「STOP」キーを押して作業を終了してください。

また、作業終了に伴って PTO を切る際は、必ず回転数を下げてから切るようにしてください。

散布パターンが二等辺三角形の綺麗な掛け合わせになることは、均一な散布を行う上で非常に重要となります。掛け合わせが正確になり、均一になります。作業幅を広げすぎると散布パターンが台形のような形になってしまい、掛け合わせが少なく少しのずれで均一性が大きくずれてしまう可能性もありますので十分注意してください。過度な散布幅は防除畝と合わなくなる可能性もあります。

境界線散布装置

トリムフロー（オプション）



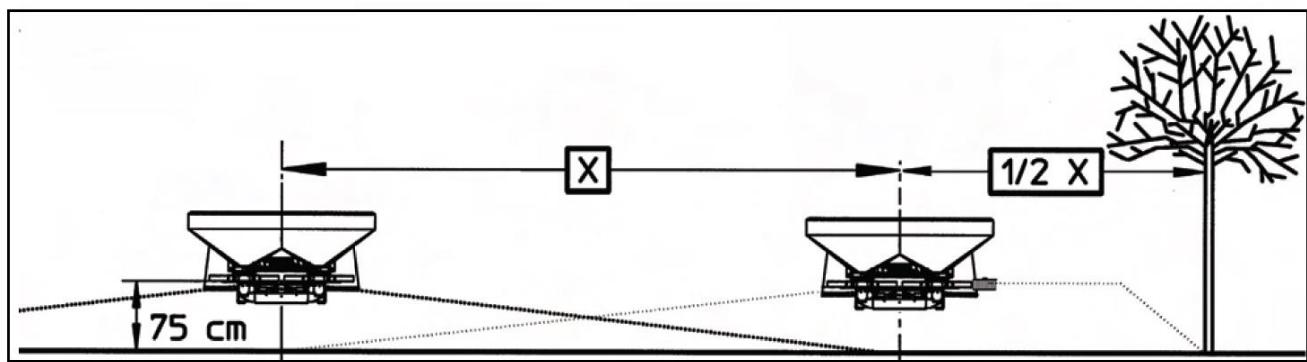
オプションの境界線散布装置のトリムフローはトラクター外部油圧(単動)により通常作業⇒境界線散布作業の切り替えが可能です。

散布表を参考に、トリムフローの目盛調整を確認してください。

本体のシャッター目盛は散布表を参考してください。

最初のトラムライン通路、もしくは畠端から散布幅の半分の位置を走行してください。

走行方向はトリムフローの装着されている側で走行してください。



散布表を利用してのセッティング

散布表に「トリムフロー」のセッティング方法が記されている肥料は下記の方法で設定してください。

用水などがあり、畠の外に散布できない場合には ECO モードを使用してください。

例) 左表①

PTO 回転数 : 450rpm

トリムフローレバー : 5

	②	①
	540	450
	810	675
	8	5

トラムライン作業など正確な重ね合わせが必要な場合、Yield モードを参考にします

例)左表②

PTO 回転数 : 540rpm

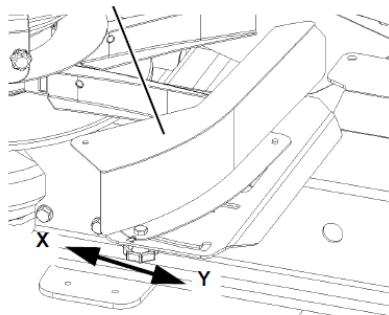
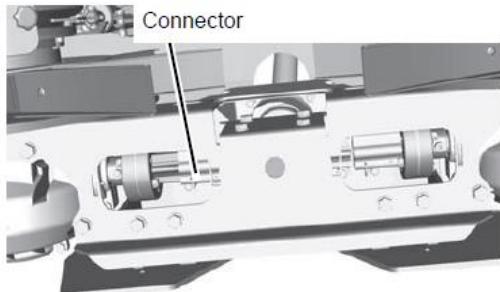
トリムフローレバー : 8

ボーダープレート（オプション）

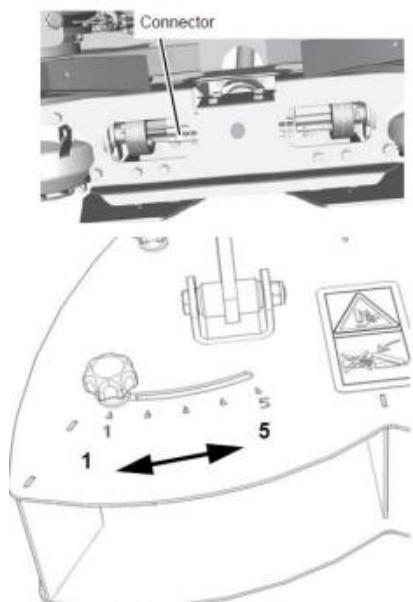
手動タイプ

圃場の端を走行して、境界線散布を行うための装備です

トリムフローは枕地を走行して散布するのに対し、ボーダープレート
は圃場の端を走行する違いがあります



油圧タイプ



プレートの位置は X ⇌ Y の位置を選択することができます。

[X 設定] 境界線の外に特に肥料が出にくくする設定。境界線付近の散
布量は薄くなります

[Y 設定] X 設定よりは境界線の外に出やすいが、境界線付近の散布量は
しっかり撒かれる

- 1) トランクターのエンジンを切り、安全を確保してから、コントロール
ボックスの設定で右側のシャッターを完全に閉じ、右側ディスクシャ
フトのコネクタを外し駆動を止めます。
- 2) ボーダープレートを装着します。このときベーンが当たらないよう
に確認してください。
- 3) 敷設量や敷設幅は通常の設定を行ってください。

手動タイプの場合、旋回は反時計回りしか行えません。

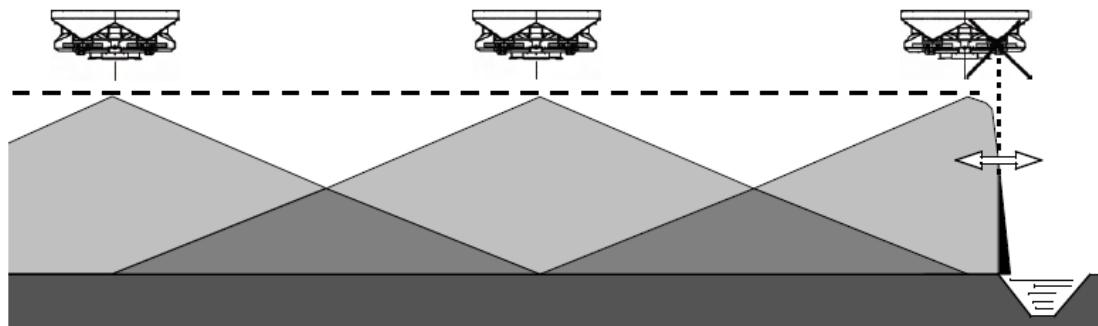
設定数値は散布表に従ってください

散布幅に応じて PTO 駆動速度(ディスク回転数)を通常の散布より遅く
する必要があります、次ページを参考にしてください。

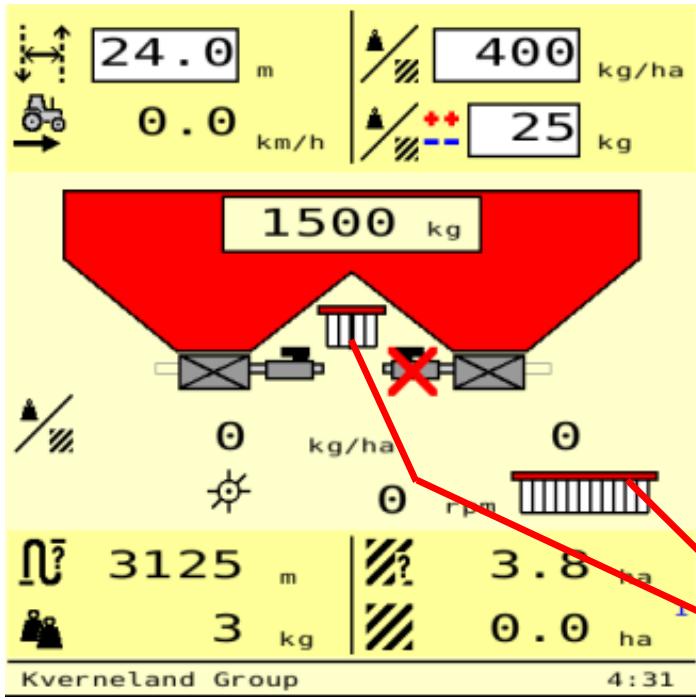
- 1) コントロールボックスのボーダープレート設定で散布を行いたい方
にチェックを入れます。
- 2) トランクターのエンジンを切り、安全を確保してから、散布を行わな
い方のディスクシャフトのコネクタを外し駆動を止めます。
- 3) ボーダープレートを降ろします。
- 4) 敷設量や敷設幅は通常の設定を行ってください。

油圧タイプの場合、旋回方向は時計/反時計回りどちらでも作業するこ
とができます

ボーダープレート使用イメージ



感知センサー

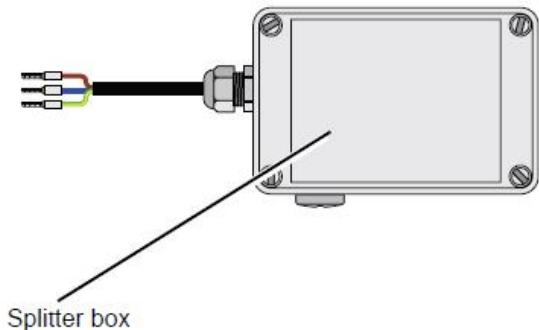


左右トリムフロー及び油圧タイプボーダープレートはトラクターキャビン内から位置が見にくい箇所にあります。

そのためこれらはセンサーによってコントロールボックス内から確認することができます

複数の境界線散布装置が取り付けられている場合は、左図のセンサーBOXを取り付けることで同時に画面表示を行うことができます

トリムフロー/ボーダープレート



メンテナンス

	毎日	初動 10時 間後	毎週	作業 100 時間 毎年	ま た は 毎年	必 要 に 応 じ て	摩 耗 / 破 損
点検							
ボルトとナット		●	●				
油圧系統	●	●					
アジテータ周辺	●						
ベーン	●						
ドージングプレート		●		●			
各種設定		●		●			
ディスク調整		●		●			
注油(グリスアップ)							
カップリングシャフト	●						
シャッター内部	●						
アクチュエータ	●						
トリムフローハンジ			●				
油の塗布及び注油							
PIC軸				●	●		
センターギアボックス		●		●			
サイドギアボックス				●			
油の塗布							
スプレッディングディスク		●		●			
交換							
油圧ホース及び接続					●	●	
アジテータ				●		●	
ベーン						●	

メンテナンスのタイミング

作業機を長くご使用いただくためにも定期的なメンテナンスを行ってください。

左記の表に記載のタイミングをもとにメンテナンスを行ってください。

日常の清掃

作業後毎回ホッパーを空にしてください。もし少しでも肥料が残っている場合はキャリブレーションコンテナを使用してホッパーを空にしてください。ホッパー内をきれいな水で洗浄してください。機械が完全に乾いてから磨耗して金属が露出している部分などに防錆油を塗布してください。またギアボックスのペアリング上部にもオイルを塗布してください。

注意！

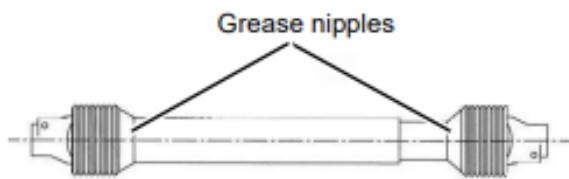
高圧洗浄機を使用する場合、シーリング部は3bar以上の水圧で洗わないでください。

電装系統や配線、重量センサーなどの各センサー部分には直接高圧洗浄を行わないでください。

危険！！

スプレッダーの点検または修理を行う前に必ずトラクターのエンジンを切ってください。特に溶接を行う場合は作業機を完全に洗浄し電装系統を全て取り外してから行ってください。肥料が残っている状態だと爆発する恐れや、センサーが破損する恐れがあります！

注油箇所

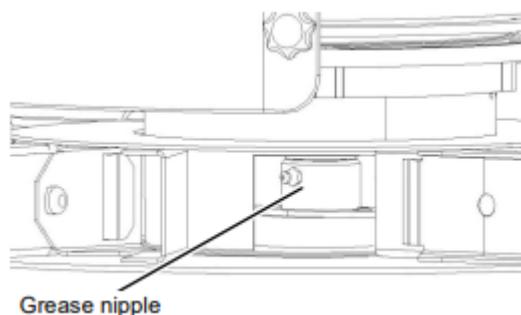


PTO シャフト

グリスピントは 4 箇所あります

使用前に異常がないか確認して、必要に応じて交換してください

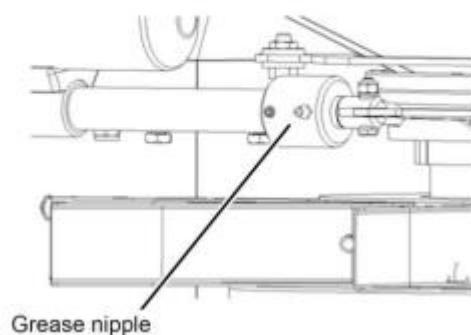
作業 8 時間毎に注油してください。



駆動部

各ディスクのアジャーテータシャフト 1 箇所、左右計 2 箇所作業前に注油を行ってください

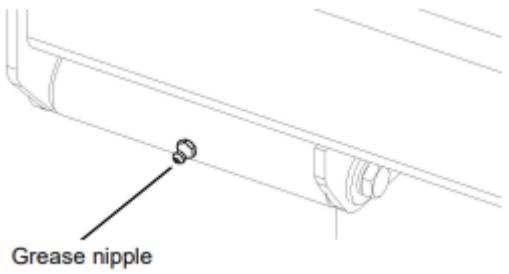
電動アクチュエータ



アクチュエータ

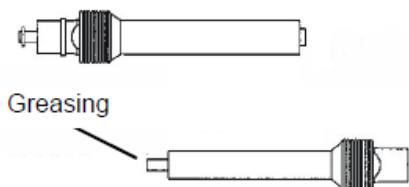
左右アクチュエータにはグリスピントが 1 箇所ずつあります

作業前に注油してください



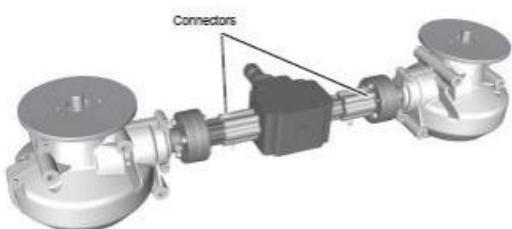
トリムフローヒンジ

トリムフロー(オプション)のヒンジにグリスピント
が 1箇所あります
毎週注油を行ってください



カッピングシャフト

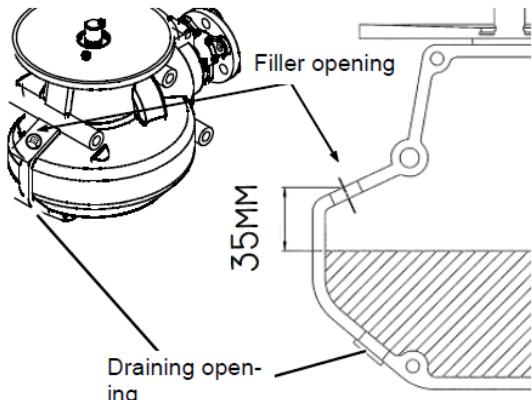
作業 100 時間毎もしくは年 1 回注油を行ってください



ディスク駆動シャフトのコネクタ

両ディスク駆動のコネクタがスムーズにスライドするよ
うにグリスを塗布してください

- ・始動後 10 時間
- ・作業 100 時間毎



センターギアボックス

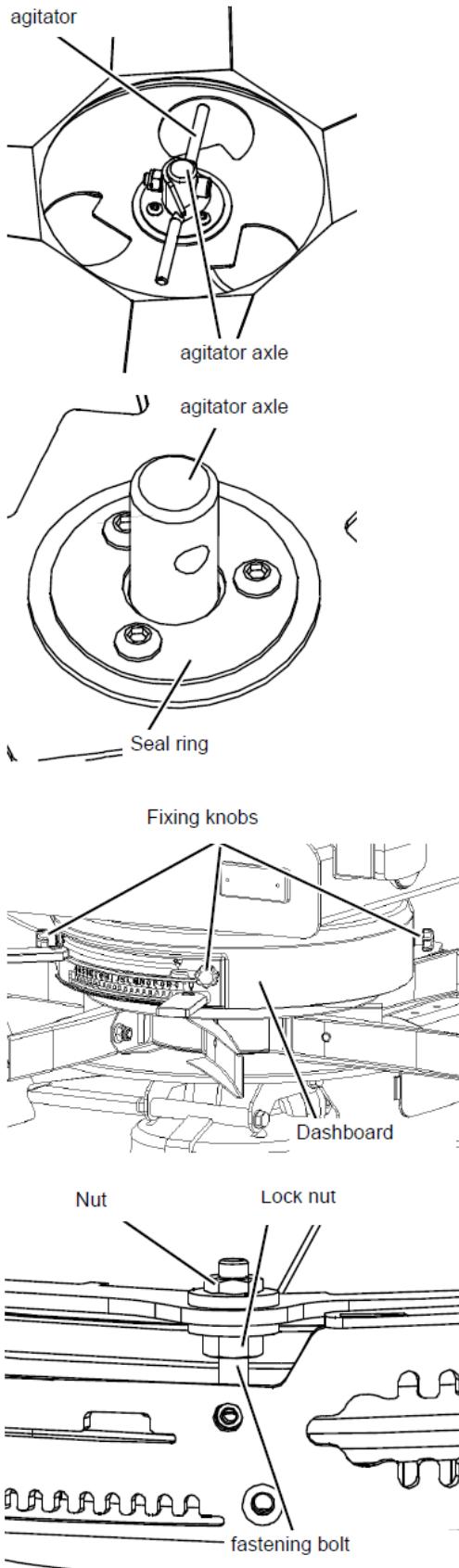
センターギアボックスのグリス量は 0.25L です。グリス
量の確認は毎日実施してください。グリスの交換は始動
後 10 時間、その後作業 100 時間毎に実施してください。

ディスクギアボックス

各ディスク下のギアボックス内にはグリスが充填されて
います。給油口の 35mm 下まで入っているのが正常で
す。作業 100 時間毎に交換を実施してください。

点検箇所 / 方法	量	仕様
セントラルギアボックス	2×0.25 L	EP00/000 gear grease
ディスク ギアボックス	1.5 L	EP00/000 gear grease
グリースの注油	1-2 回	Shell Rodina 2, Castrol GS2 または相当品
オイルの注油	1-2 回	MIL-L-2105C SAE 80W-90

点検箇所



アジテーター部分の点検

注意！

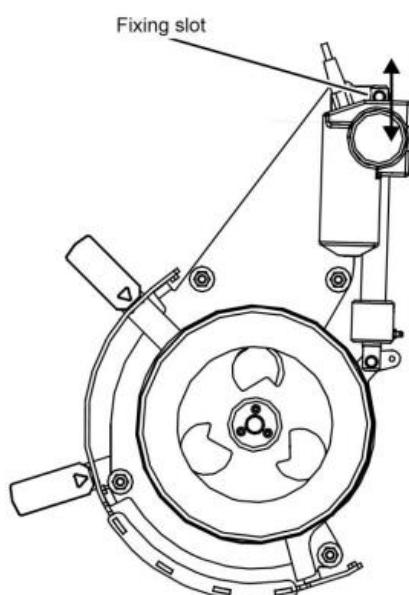
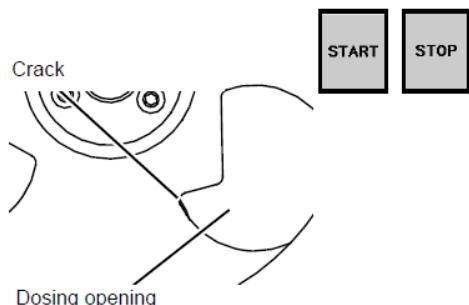
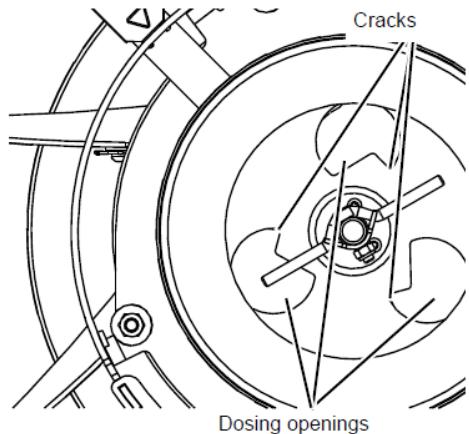
本機の点検・補修を行う場合には、手袋など肥料に触れても大丈夫な準備の上で実施してください。

- ・アジテーター軸部には肥料のこぼれを塞ぐ目的でプラスチックリングが装着されています。
- ・プラスチックリング（シール）は毎シーズンもしくは作業 100 時間毎に交換してください。
- ・交換はホッパー内及び散布部の清掃を行った上で実施してください。

実施要領

- 1)本機を水平で安全な位置におきます
- 2)電源を切り、トラクターを停止させます
- 3)アジテーターを軸から取り外します
- 4)アジテーター軸とメタルシーリングの距離が均一であることを確認してください
- 5)距離が一定でない場合は、3箇所のノブを外し、カバーを外します
- 6)ホッパー固定ボルトを緩め、アジテーター軸とメタルシーリングの距離を一定に調整します
- 7)そのままホッパー固定ボルトを元に戻し、アジテーターを元にもどします
- 8)同様にカバーを取り付け、ノブを取り付けます

メータリングプレートの点検



メータリングプレートの点検

注意！

メータリングプレートの調整は、トラクターのエンジンを止め、キーを抜き駐車ブレーキをかけて実施してください。

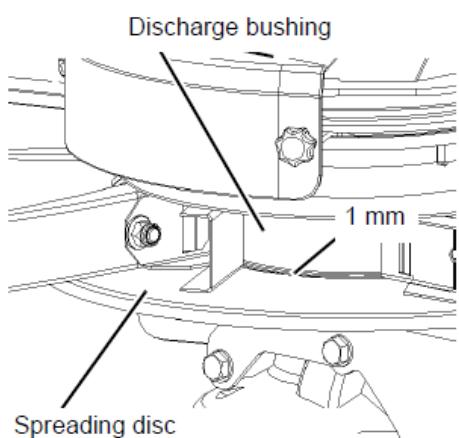
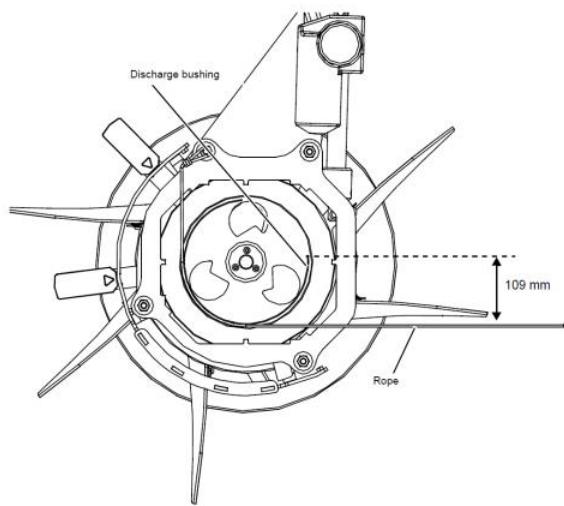
- ・コントロールボックスでメータリングプレートを開じます
- ・メータリングプレートはわずかに隙間がある状態が正常です。もし図のように全く隙間がない状態の場合は調整を行う必要があります。

実施要領

- 1)本機を水平で安全な位置におきます
- 2)電源を切り、トラクターを停止させます
- 3)図のアクチュエータのスロットのボルトを緩めメータリングプレートの隙間が 1mm~1.3mm になるように調整します。
- 4)調整後、トラクターのエンジンを開閉し、再度閉じます
- 5)安全に注意して、トラクターを始動させメータリングプレートの隙間を確認します

肥料排出タイミング調整の点検

散布パターンの左右の差異が 3%以上ある場合は調整を行ってください



実施要領

- 1)本機を水平で安全な場所におきます
- 2)トラクターを停止させます
- 3)肥料散布パターン調整レバーを"Q"の位置に合わせます。
- 4)図のようにディスチャージカップの周りにワイヤーを巻きつけ、ワイヤーとディスチャージカップの開口部の間隔を確認します。109mm であれば正常です
- 5)109mm 以上/以下の場合はロックナット 4 本を緩めメタリングプレートを回転させて正規位置に合わせます。
- 6)調整後ロックナットで再固定します。
- 7)カバーを取り付けノブで固定します
- 8)この点検は左右とも同様に行います

ディスチャージカップの点検

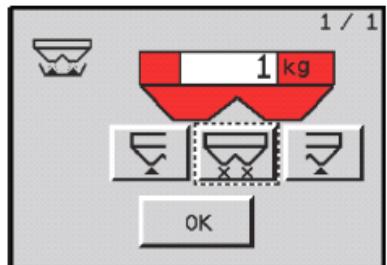
ディスチャージカップと散布ディスクの隙間が 1mm であることを確認してください。

注意！

隙間が 1mm 以上ある場合は、作業機をトラクターに装着し、作業高さを地面から 750mm まであげた状態で調整してください。

実施要領

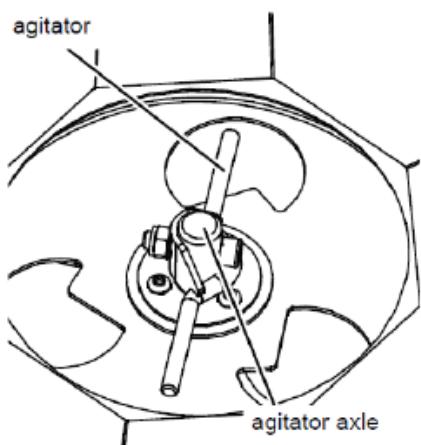
- 1)3箇所のノブを外し、カバーを取り外します
- 2)4箇所のロックナットを緩め(締め)て下の調整ボルトで隙間が 1mm となるように調整します。
- 3)調整が終了したらロックナットを固定し、カバーを取り付けノブで固定します



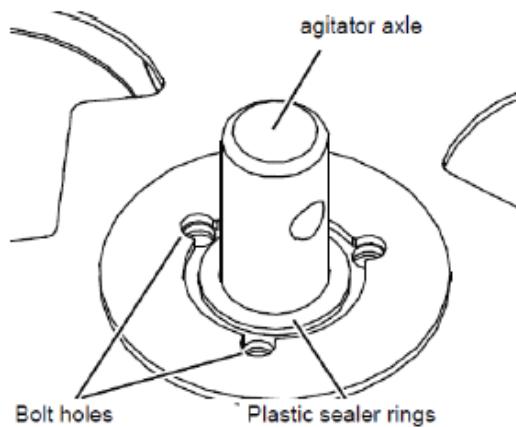
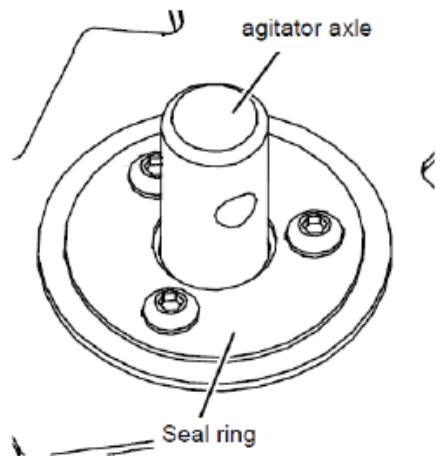
アジテーター部の点検/補修

- ・アジテーター軸部には、肥料のこぼれを塞ぐ目的でプラスチックリングが装着されています。
- ・リングは毎シーズンまたは作業 100 時間毎に交換してください。
- ・交換はホッパー内及び散布部の清掃を行った上で実施してください。

実施要領



- 1)トラクターのエンジンをかけ、コントローラーのメイン画面からカーブキャリブレーション画面に移動します
- 2)Empty ホッパーキーで OK を押して両側のシャッターからホッパー内を空にします
- 3)このときアクチュエーターは最大開度になります。この状態で本機を水平で安全な場所に置きます。
- 4)電源を切り、トラクターを停止します
- 5)微量散布の調整ハンドルを通常散布の位置にします
- 6)アジテーターを軸から外します
- 7)シーリングのボルト 3 本を外します
- 8)シーリングメタルを外します
- 9)プラスチックシールを交換します
- 10)交換後、シーリングメタル、アジテーターを取り付けます
- 11)復旧後再度シャッターの開閉を行い、問題がないことを確認してください





札幌営業所：北海道千歳市上長都1121-2 TEL 0123-26-2241 FAX 0123-26-2230

帯広営業所：北海道河西郡芽室町東芽室基線19-1 TEL 0155-62-6401 FAX 0155-62-6403

東北営業所：岩手県紫波郡矢巾町広宮沢 10-520-11 TEL 019-614-9520 FAX 019-614-9522

関東営業所：福島県西白河郡泉崎村泉崎第一工業団地 TEL 0248-53-4121 FAX 0248-53-4123

九州営業所：熊本県熊本市東区戸島町438-1 TEL 096-237-7766 FAX 096-237-7767